

「トランスジェンダー国会」初開催 当事者が国会議員に訴えた、法整備が進まない生きづらさ

2022年10月12日 18時33分



「トランスジェンダー国会」で法律改正を訴える鈴木げんさん（右から2人目）ら。12日、東京・永田町の参院議員会館で

出生時の性別と異なる性で生きるトランスジェンダーの人々を取り巻く課題の共有や、性別変更に関する法制度の見直しを訴える集会「トランスジェンダー国会」が12日、東京・永田町の参院議員会館で開かれた。当事者団体が初めて開催し、参加した約20人の与野党国会議員に国会での議論を求めた。

【関連記事】 [「LGBT理解増進法案」どうなった？ 当事者ら「差別解消、後退した」](#)

当事者団体共同代表の浅沼智也さんは「コロナ禍の経済的困窮に加え、トランスジェンダーに対する誤った情報に基づく差別的な言説が増えている。より生きやすい社会になるように当事者の声を聞いてほしい」とあいさつした。

今年1月施行の世界保健機関（WHO）の国際疾病分類で「性同一性障害」が削除されるなど、国際的にはトランスジェンダーの捉え方は変化してきている。だが、日本では戸籍の性別変更には生殖腺をなくす手術が必要などの要件があり、見直しが進んでいない。

国際人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」日本代表の土井香苗さんは、当事者約50人への調査報告を紹介し「性別変更には手術が必要な状況に、恐怖を感じている子どもたちの声をたくさん聞いた。法制度の見直しを」と強調した。

性自認も生活実態も男性だという鈴木げんさん（47）＝浜松市＝は「手術ができない人や、しない選択をした人も性自認や生活実態に即した性別にできるように法律改正を」と訴えた。（奥野斐）